



- LRTを利用した流通拠点により歩行者優先の池袋へ



池袋中のモノが4種の倉庫に集積し、カルチャーを映し出すスクリーンとして新たな街の顔となる



スラブのズレによってラックが交錯し、事業規模の垣根を超えたポップアップストアが開催される



XL倉庫特有の天井高を生かした空間とアクティビティ

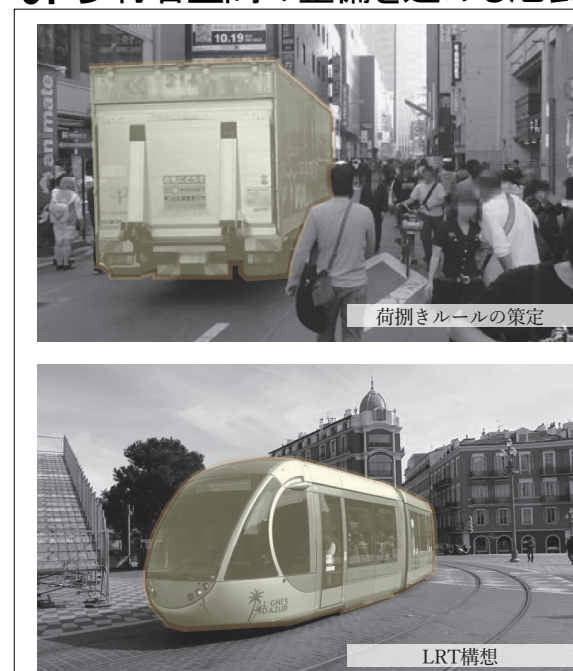


時間毎に合理的な倉庫や配送センターなど空間や機能が変化し、建築内部に様々な表情を生む



歩行者空間が創出され、ラックが池袋中に展開する

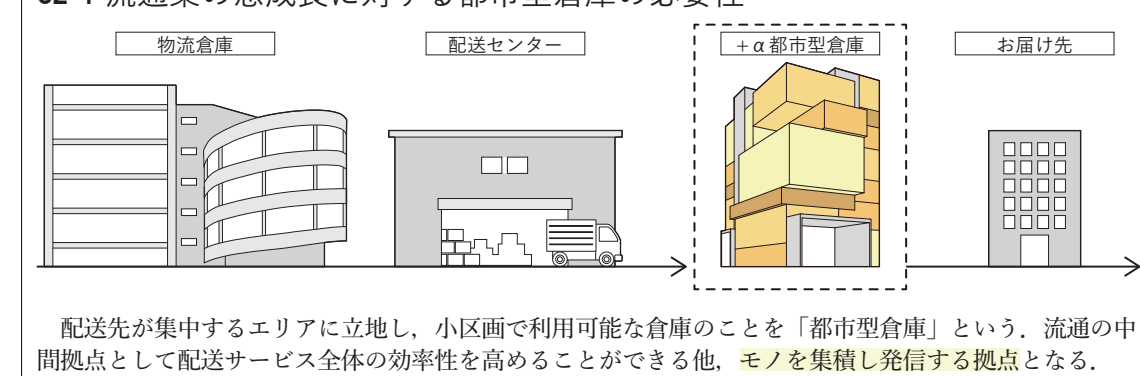
01 歩行者空間の整備を進める池袋



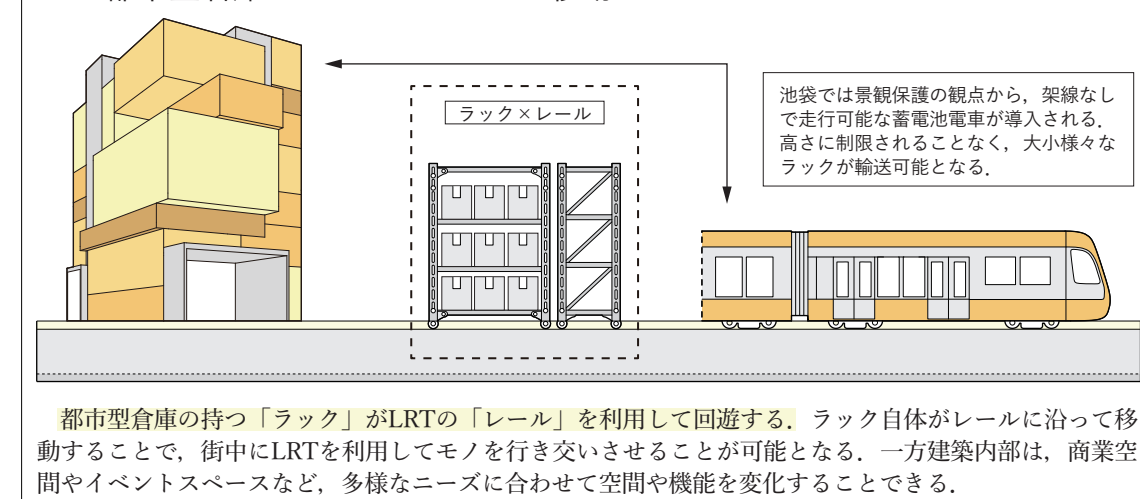
池袋は現在、駅前広場や公園の再整備・LRT構想・荷捌きルールの策定など歩行者優先のまちづくりを進めており、歩行者空間の創出と交通・輸送インフラ整備の両立が不可欠である。LRTを中心として、池袋駅周辺の交通機能を転換するだけでなく新たな流通ネットワークを築き、広域的なヒト・モノ・サービスの結節点としての建築が「すべての利用者が主役になれる街」池袋に求められている。

02 都市型倉庫×LRT

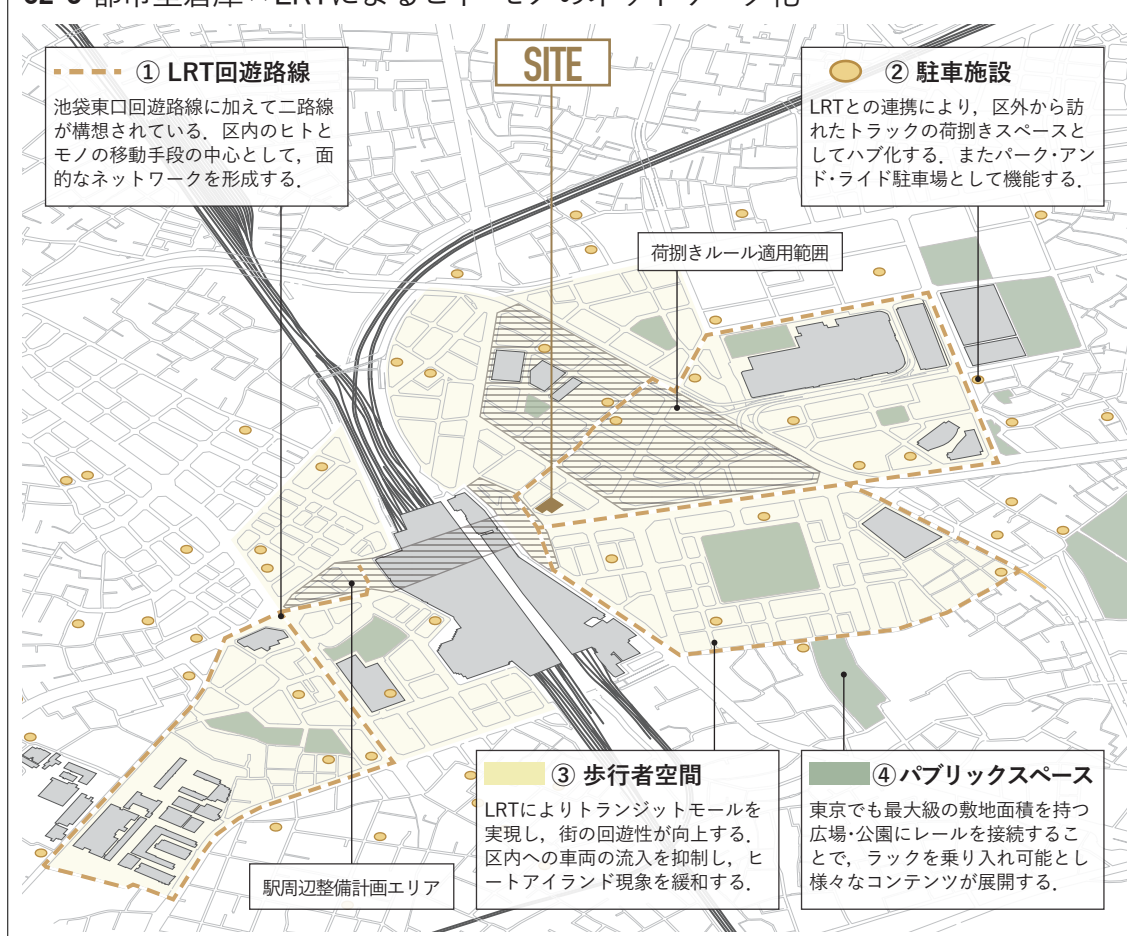
02-1 流通業の急成長に対する都市型倉庫の必要性



02-2 都市型倉庫×LRTによるモノの移動

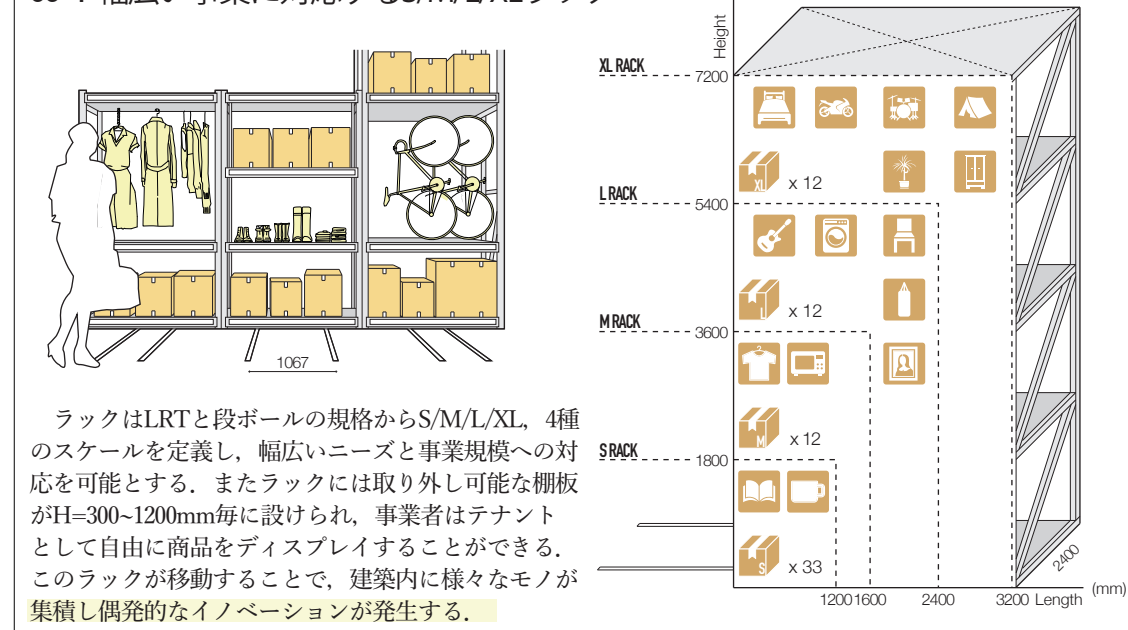


02-3 都市型倉庫×LRTによるヒト・モノのネットワーク化

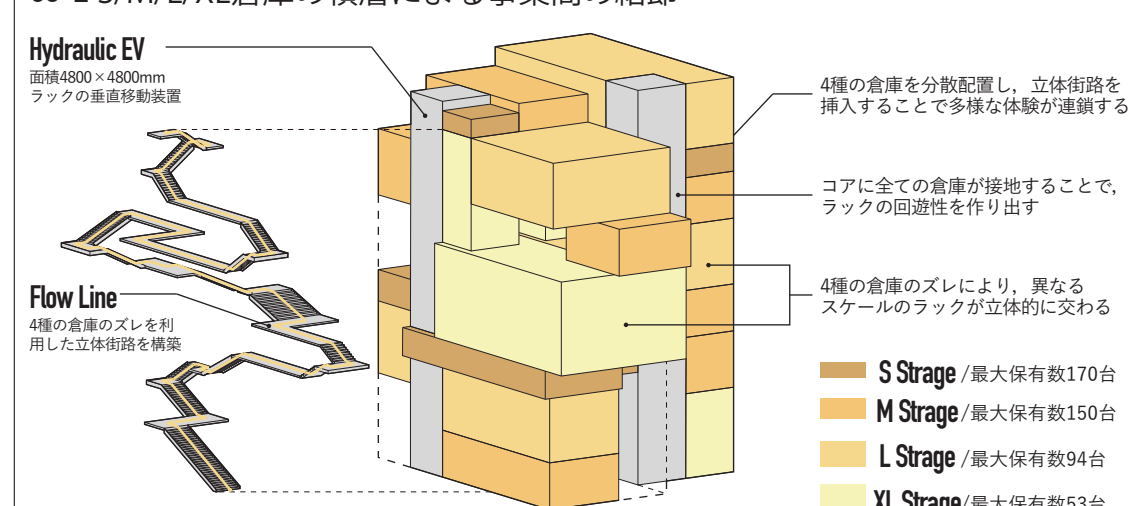


03 ラック・アンド・レール建築 (RACK'N RAIL Architecture)

03-1 幅広い事業に対応するS/M/L/XLラック

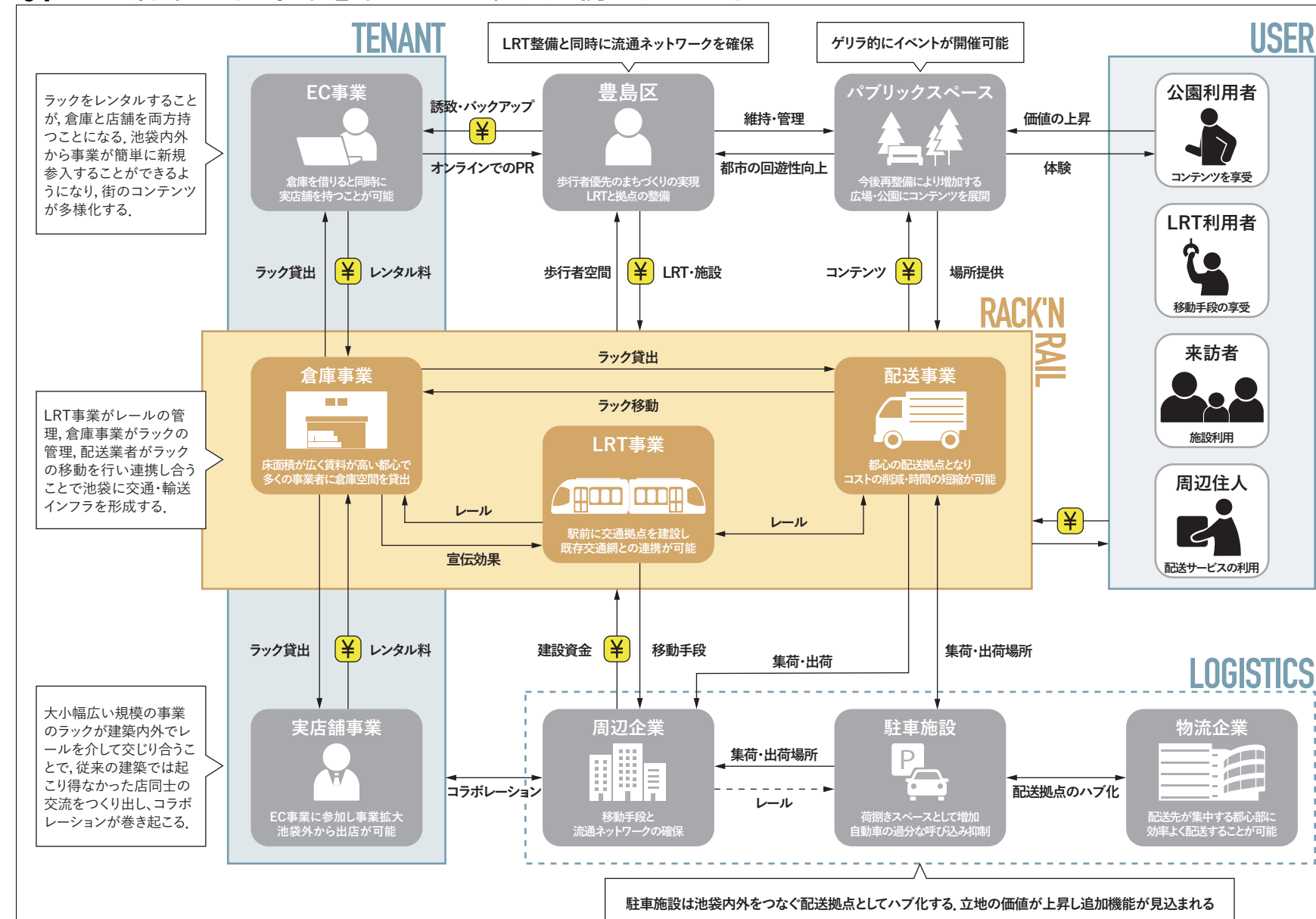


03-2 S/M/L/XL倉庫の積層による事業間の結節



4種のラックのスケールに合わせた倉庫のボリュームを積み重ねていく。S/M/L倉庫がXL倉庫に隣りように設けることで、XL倉庫がヴォイドとして機能し多様な関係を結ぶ。またS/M倉庫を立体的に連続させて配置することで、ヒューマンスケールな垂直移動とダイナミックな空間変化が共存する。

04 LRT・倉庫・配送事業を中心とした官民連携プラットフォーム



本計画ではLRT事業・倉庫事業・配送事業の3社を中心とした運営形態を採用する。これらの運営事業が区内に交通・輸送インフラを形成する対価として、豊島区はLRT車両の貸出・整備と周辺企業と共に施設建設資金を出資する。これにより、豊島区はLRTの設置と同時に流通ネットワークを形成して歩行者優先のまちづくりを実現が可能となり、運営事業はラックとレールを利用した新事業の拠点を好立地に整備することができる。また、LRT回避路線周辺の駐車施設は荷捌きスペースとして、パブリックスペースはラックによってコンテンツが展開される場所と価値付けられるなど、面的に賑わいのある都市空間を生み出すことができる。

□ダイナミックスペース
この建築はひと繋りの大空間で構成されている。ラックが移動することで、建築内部のラック保有率が流動的に変化し、ふいにヴォイドが現れる。そのヴォイドを介して偶発的な事業間(ラック間)の関係が生まれる。

□ラックスキン
ラックには棚板が設けられることから、スキンとして機能し日射遮蔽に有効である。またラックが移動することで、アクティビティに合わせて柔軟に外部環境を取り込むことができる。

